

おやこであそぼう あわじのぼうけんプレーパーク

- 趣 旨：
 - ・幼児期の保護者に対して幼児期の運動遊びの重要性を啓発する。
 - ・ダイナミックな遊びを展開するためのノウハウやリスクの視点を学び、事業後の家族での遊びの幅を広げるきっかけとする。
- 日 時：平成30年12月15日（土）13:00～12月16日（日）12:00
- 場 所：国立淡路青少年交流の家
- 対 象：幼児期の子どもとその保護者
- 参加者：5家族13名（保護者6名、子ども7名）
- 講 師：天理大学 講師 蓬田 高正氏



7 プログラムの内容

12月15日（土）13:20 プレーパークであそぼう

開講式が終わり、参加者全員で地図とあわじネイチャービンゴカードを持って松林に行った。松林内には事前に職員がロープでつくった遊具が設置されており、まずは親子で一緒に遊んだ。時間が経つにつれ動きが大きくなり、遊具以外にも木登りを始めたり、吹上浜に行きネイチャービンゴに書かれた貝殻を探したり、砂浜に大きく絵を描いたりして楽しんだ。風が吹き始めると寒さが出てきたため、松林の中央で火を焚いて、みんなで暖を取った。おしゃべりをしたり、全員で鬼ごっこが始めたりと、時間をめいっぱい使って遊んだ。



12月15日（土）19:30 親子別プログラム

夕食、入浴後は保護者と子どもたちで分けてプログラムを行った。保護者は「幼児の運動プログラムとリスクマネジメント」という内容で、講師の蓬田高正氏がお話しされる中、保護者間で交流できる機会を設けた。交流の場では子育てをしている中で、困っていることや興味があることなどを話して、情報を交換したりし有益な時間を過ごせたという声が上がった。

子どもたちは、毛糸と紙皿を使ってクリスマスリースをつくった。色とりどりの毛糸と、昼間に拾った松ぼっくりや、ドングリ、貝殻などをつけて個性的なリースがいくつも出来上がった。リースを作成後は昼間に遊んだ松林や吹上浜に夜のおさんぽに出かけた。昼間とは違って風の音が大きく聞こえ、視覚以外の感覚を頼りに、自然を感じている様子があった。



12月16日(日) 9:20 プレーパークをつくろう

2日目は自分たちでプレーパークをつくろうということで、まずは吹上浜に行き遊具に使える材料を探した。浜には流木やタイヤなどの他に、淡路島らしくタコツボもあつたりと、参加者のアイデアを膨らますものが多い、それぞれどのような遊具をつくろうか考えながら拾った。

拾ったものを松林に運び、子どもたちも意見やアイデアを出しながら、大きなブランコや滑り台、タコツボのストラックアウトなど、様々なアイデアが形となり遊具が完成していった。

完成した遊具は、子どもも大人も思いっきり体を使って遊び、また遊びながら使い方を広げたり、ルールを考えたりしていき、時間があつという間に過ぎていった。参加者からは「本気で遊ぶのは楽しい」「こんなに走ったのは久々」という声が聞かれた。



8 参加者の声

- 思いっきり走るのは楽しい。
- 体を使って遊ぶ大切さを学べたし、感じられた。
- リスクを管理した上で自由に遊ぶことの大切さを感じた。
- 遊ぶ環境や経験は大人がつくる必要があると感じた。

9 所感

普段は何もないただの松林も、ロープや漂流物を使って遊び場になる姿が楽しかった。またそれ以上に参加者の親子が様々なアイデアを出しながら、時には保護者同士で相談したり、補助をしあつたりして遊びの質を高めていく姿が印象的だった。

アンケートや実際行っている姿を見ていると、遊びの重要性やそこから得られる満足感などを子どもはもちろんのこと、大人も感じていることが分かつたため、遊びを創りだすことで生まれる楽しさや、満足感や充足感を今後も伝えることや、それらの活動をサポートできるようにしていきたいと思う。